

西洋だこと六角だこ

小川未明

青空文庫

年郎くんは、自分の造った西洋だこを持って、原っぱへ上げにいきました。

原っぱには、木がなかったから、日がよく当たって、そのうえ、邪魔になるものもないので、すこしの風でもたこはよく上がりました。

きよ子さんに、たこを持ってもらって、年郎くんは、

「いいよ。」と、あちらから合図をして、放してもらうのです。風があると、たこはおもしろいように、ぐんぐんと空へ上がるのでした。広い原っぱには、おおぜいの子供たちがきて同じように、いろいろの絵だこや、字だこを上げていました。

「僕のが、一番だこだよ。」と、威張っているものもあれば、それに負けまいと思つて、糸をどんどん繰り出しているものもありました。

年郎くんは、どうも自分の造った西洋だこが、調子が悪かったのです。尾を長く長くしなければ、すぐにくるくるまわって落ちてしまふし、あまり尾を長くすると、重くて、なかなか上へはあがらないのでした。

「だめよ、年郎さん、こんなに尾を長くしては。」と、とうとうきよ子さんは、しびれを切らして、いいました。

年としろう郎くんは、うらめしそうに空そらを仰あおいで、ほかのたこがよく上がっているのをぼんやりとながめたのです。

「あ、あの六角かくだこは、僕ぼくのによく似にているなあ。」と、遠とおくの方ほうで、知らない子こが上あげているたこを見みつけていました。

「どのたこ？」と、きよ子さんも、年としろう郎くんが、ながめている空そらの方ほうを見みたのです。なるほど、年としろう郎くんの大事だいじにしていた六角かくだこが上がっています。真まん中なかにどろがついているのや、尾おに赤あかいひもと白しろいひもがついているのや、すべてに見み覚えおぼがありました。

「どうしたんでしようね。」と、きよさんは、目めをみはりました。

「飛とんでいった僕ぼくのたこを拾ひろったのだと思うよ。」と、年としろう郎くんは、自じ分ぶんの上あがらない西せい洋ようだこのことなど忘わすれてしまつて、ただ熱ねつ心しんによく上あがっている六角かくだこを見みつけていました。そして、このあいだ、糸いとが切きれて、飛とんでいったたこは、どうとう追おいつかれなくて、町まちの方ほうへ落おちてしまつたのを思おもい出だしてしました。

「なんだか年としろう郎さんのたこらしいわね。」と、きよさんが、いいました。

「きつと、僕ぼくのたこだよ、あの子こ、拾ひろったのだ。」

「年としろう郎さん、きいてごらんなさい。」

「だって、ちがうと悪いな。」と、年としろう郎くんは、考かんがえていたのです。

「尾おもよく似にているわ。」

こう、きよこよさんがいつたので、年としろう郎くんは、ついに、その子こ供どものそばへいつて聞きいてみる気きが心こころの中なかに起おこつたのでした。

年としろう郎くんときよこよさんは、六角かくだこをあげている子こ供どものところへきました。そして、年としろう郎くんは、

「このたこ、どこかで拾ひろつたのでない？」と、その子こ供どもにきました。

たこをあげていた子こ供どもは、わぎと年としろう郎くんの顔かおをみないようにして、上うのほうを向むいてたこをみながら、

「このたこは、お父とうさんに買かつてもらつたのだ。」と、いって、答こたえました。

そういわれると、年としろう郎くんは、

「僕ぼくのたこによく似ているけれどなあ。」と独ひとりこをいうばかりで、どうすることもできなかつたのでした。

「きつと、あの子こ、うそをいつているのよ。」と、きよこよさんは、こちらへくるといいました。

「僕ぼくと同じたおなこを町まちで買かつたんだらう。」と、年としろう郎ろうくんは、答こたえたのです。

この付つき近きんでは、この原はらっぱへきてたあこを上あげるよりほかにいい場所ばしょが、ありませんでした。だから町まちの子こ供どもも、そうでない子こ供どもも、みんなこへきてたあこを上あげたのであります。しかし、このことがあつてから、あの町まちの子こはどうかこの原はらっぱへ姿すがたを見みせなかつたのでした。

年としろう郎ろうくんが、お母かあさんから、新あたしいたあこを買かつてもらつて、原はらっぱで、いつもたあこを持もつてくれるきよ子こさんと、そのたあこを上あげて遊あそんでいると、いつかの子こが、だやぶいぶ破やぶれた六角かくだあこを持もつて、年としろう郎ろうくんのそばへやつてきて、

「ごめんね、僕ぼくはうそをいいつたのだ。このたあこは飛とんできたのを拾ひろつたのだから、君きみにお返かえしする。」と、あやまつて、頭あたまを下さげました。

「やはり、僕ぼくのあつたんだな。」

やさしい年としろう郎ろうくんは、こうしてあやまられると、怒おこることができませんでした。

「いいよ、僕ぼくは、新あたしいのを買かつたから、このたあこは、君きみにあげるよ。」と、いつて、そのたあこを町まちの子こ供どもに与あたえたのです。町まちの子こ供どもは、きまりわるそうにして、そのたあこをもらつてゆきました。

それから、またその町の子は、毎日のようにこの原っぱへきて、六角だこを上げるようになりましした。年郎くんの新しい龍の字のたこは、たびたび一番だことなつて、大空からみんなのたこを見下ろしましたが、前にたびたび一番だことなつた六角だこは、どうしたのか、このごろは下の方でぐるぐるとまわつて、よく高くは上がりませんでした。

「あの子、たこを上げるのは下手ね。」と、きよ子さんが、いいました。

「あのだこは、癖があつて、むずかしいんだよ。僕が、教えてやろうよ。」

年郎くんは、自分のよく上がっているたこを、きよ子さんに持たせておいて、

「君、糸目を上にしなればだめだ。」と、いいながら、町の子の方へ飛んでゆきました。

青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 11」講談社

1977（昭和52）年9月10日第1刷発行

1983（昭和58）年1月19日第5刷発行

底本の親本：「小学文学童話」竹村書房

1937（昭和12）年5月

初出：「台湾日日新報」

1937（昭和12）年3月11日夕刊

※表題は底本では、「西洋《せいよう》だこと六一角《かく》だこ」となっています。

※初出時の表題は「西洋風と六角風」です。

入力：特定非営利活動法人はるかぜ

校正：酒井裕二

2016年9月9日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

西洋だこと六角だこ

小川未明

2020年 7月18日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>